

石巻市避難所に入浴施設を設置

郡市のグリーンエナジーとサイエンスらが

東日本大震災で被災した宮城県石巻市の避難所・湊小学校で16日、十日町市と津南町の有志企業が中心となり設置した簡易無料入浴施設「希望の湯(亀山石巻市長命名)」が開設され、被災者に開放された。

被災から1ヶ月を過ぎた同市では、自衛隊提供

などの仮設風呂はあるが限られるため、同避難所で暮らす現在約300人のうち、高齢者の多くは被災以来一度も入浴できていなかった。

感染症予防対策から、この状況に危機感を抱いた諏訪中央病院の鎌田實名院長が「千人風呂プロジェクト」の実施を呼びかけ、その話をラジオで聞いた市内高田町6の㈱グリーンエナジーの小海孝雄社長が、津南町秋成のサイエンス㈱(桑原克己社長、本社・埼玉県)らに協力を求め、両社が扱う瓦礫木材でも燃料と

して活用できるバイオマスボイラーと、水確保が大変な同市だけに循環タイプで何度もお湯が使える節水型の温浴ろ過装置を組合わせて、入浴サービスを提供する仕組みが作れないかと準備を進めてきた。

今日13日に現地入りした有志企業グループはまず整地と瓦礫の後片付け、機器の設置を行い、翌日には浴槽・貯水槽設置、配管工事や電気工事を進め、15日にはトラブル対応もあり、給水試験や配管工事など最終仕上げに向けて、ほとんど徹夜で

の作業となった。

完成した希望の湯は、小松屋装飾(市内市之越)が提供設置したイベント用大型仮設メント内に、FRP超大型男女浴槽(6・3㍓×3・5㍓)を設置。給水車で水補給を行い運営する。配管工事や電気工事等は協力要請に応じた県内外の有志企業が行った。

16日午後には亀山石巻市長が瓦礫から集めた薪を薪ボイラーに入れる火入れ式が行われ、午後4時から待ちかねた被災者らが次々と入浴した。

この日は一時間ほどで

約50人が入浴。翌日から避難所自治会のボランティアが運営し、同避難所住民以外にも開放されている。最初に入浴した4人のおばあちゃんのうち、3人が震災以来初の入浴で、もう1人は震災以来2回目の入浴とのこと。「ずっと我慢してきました。生き返った思いですや」「気持ちよかったです」「極楽です」など満面の笑顔があふれた。

小海社長は「十日町市と津南町の住民から入浴用品を無償提供頂きありがとうございました。おかげさまで、お陰様で、企業の皆さんからの提供もありタオルやシャンプー、リンス、固形石鹸が数千個単位、段ボール箱で200箱程度集まり、避難所に届けました。避難所の6割が高齢者の方で、入浴したお年寄りの方は本当に喜んでいました。タオルや石鹸も十日町市民や津南町民らの寄付ですとお伝えすると感謝していました。お風呂から響いてくる笑い声で今までの苦勞が報われた思いです」と目を細めた。



完成した「希望の湯」(上)と入浴する被災者